

産後ママに寄り添う

産後ケア事業の充実

本市では、平成28年10月から、出産後の特に支援の必要な方に対して助産師が自宅へ訪問し、心身のケアや育児のサポートなどを行う訪問型産後ケア事業をスタートしました。

問 事業開始からの実績と、今後の取り組みについて聞か。

答 平成29年1月までの4か月の利用者は延べ17人と少ないが、利用者の評価は高く、今後は産科医療機関で周知するほか、事業の必要性を個別に説明することが利用につながる。ことから、母子健康手帳交付時の母子保健コーディネーター等との面接数を増やすなどし、対象者に直接紹介していく。

また、誕生2カ月後頃までの赤ちゃんがいる家庭が対象の赤ちゃん誕生おめでとう訪問事業で、産後ケア事業の利用が有効と思われる事例があったことから、同事業の利用対象期間を産後2カ月未満からさらに2カ月程度延長するなど、よりニーズに対応した事業内容への見直しを検討している。

少子化や女性の社会進出への対策として、妊娠・出産等に係る支援体制の構築が全国的な課題となっている中、東京都中野区では、出産後に助産院に宿泊し、母体や赤ちゃんのケア等を行うショートステイ事業や、専門知識を持ったケア支援者を自

宅に派遣するヘルパー派遣事業を実施するなどの先進的な取り組みが実施されています。中野区の取り組みを踏まえた、今後の事業展開の考え方について聞か。

問 平成26年度に県が実施した育児相談参加者等に対する調査では、ヘルパーの派遣については、「ぜひ利用したい」が24・2%、「場合によっては利用したい」が26・6%との結果がでている。

また、28年の赤ちゃんおめでとう訪問事業における調査では、産前産後に希望するサービスについて、母乳育児支援が16%、託児が14%、家事支援が13%であったことから、ヘルパー派遣による訪問型の産後ケアの検討が必要であると考えている。

また、宿泊型、デイサービス

型の産後ケア事業については、事業の実施場所となりうる病院や助産所等の協力が必要である

多方面の連携で進める 特別支援教育

ため、関係機関等とともに課題を整理し、総合的に検討する。

本市では、特別な教育的支援の必要な子どもたちのために、平成28年5月1日現在で特別支援学校1校のほか、特別支援学級を小学校39校に121学級、中学校17校に47学級、義務教育学校2校に6学級設置しており、児童生徒のニーズに応じた教育の充実や支援体制の構築に取り組んでいます。

問 教職員の専門性の向上に向けた取り組みについて聞か。

答 現在、教育研究所において、小・中・義務教育学校の知的障害特別支援学級を中学校区単位で2〜4校の7グループに分け、グループごとの研究授業の実施や指導案作成、実践交流など知的障害教育の充実を目指した研修に取り組んでいる。

平成29年度は、新任者や経験年数が少ない担任へのサポート、訪問支援による授業サポートに重点を置いて取り組むほか、新たに、自閉症・情緒障害特別支援学級担任への研修を実施する。

また、特別支援教育を学校全体で取り組むものと位置づけ、管理職や特別支援教育学校コーディネーターを対象とした校内の支援体制づくりや、家庭や地域、関係機関との一層の連携を

問 医療機関や福祉関係者、大学等の研究機関との連携について聞か。

答 各学校においては、児童生徒一人一人の一貫した支援が円滑に引き継がれるよう家庭・医療機関・福祉関係者が参加する引き継ぎ会や支援会等の場で、学習面や放課後も含めた生活面での支援について協議しており、個別指導計画の目標設定や目標達成に向けた手立ての修正が必要になった場合や新たな課題が出た場合には、課題解決に向け、各関係機関が役割分担しながら連携している。

また、学級経営や生徒指導に苦戦している学校に対しては、教育研究所のあったか学級づくりアドバイザー派遣事業や人権・こども支援課の学校支援アドバイザー派遣事業を活用し、大学教授等の定期的な訪問や専門的な視点からの助言を受けるなど、大学の研究機関との連携を図っている。

物を自分のたんすに入れること、本棚兼荷物ケースを整理整頓することなど。これらは、今まで厳しくしつけてきたのですが、



「子育ては難しい」以前から感じていましたが、ここ数カ月、あらためて身に染みています。

上の息子が小学6年生、下の娘が4年生となったこの春、いまだに家庭生活における時間の使い方が非効率で、ルーティン行動ができないことが多いのです。

例えば、起床後の布団メイキング、脱いだパジャマを洗濯機に入れること、金曜日に内履きを持ち帰ること、帰宅後に洗濯

いまだに身に付いたといえるレベルには達しておらず、正直イライラして罵声を浴びせることもあり、親として未熟だなあと

自省することもしばしばです。

一方、二人の成長を感じることもあります。「なぜそうしたの」「〇〇について説明して」「あなたはどつ思っの」と頻繁に問いかける私に、近頃は自分なりの答えを返してくるようになったことは褒めてやってもらいたいのかなと思います。

パパの逆鱗に触れて、11回目の誕生日をふいにしたお兄ちゃん、来年は家族で楽しい食事ができたらいいね^(笑)

(議会広報委員 清水おさむ)